

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	0760050	__ 001
----	---------	--------

## 【1.基本情報】

事業名	魚類放流事業					
担当部名	経済部			担当課名	畜産課	
実施方法	委託(民間)	補助等の種類		実施主体	長良川漁業協同組合	
開始・終了年度	昭和	59	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	未成魚アユの放流及び人工ふ化を実施することにより、長良川における水産資源の確保に努め、内水面漁業の振興を図る。					
内容 (手段・手法など)	未成魚アユ800kgを7～8月に分けて長良川へ放流する。 また、親魚から採卵及び採精し、人口受精した後、長良川河口堰にて人工ふ化させる。					
事業の 対象	何を	未成魚アユの放流及びアユの受精卵の人工ふ化				
	誰に	市民、漁業者				
	どのくらい	未成魚アユ800kg、アユの受精卵4,320万粒				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	アユの受精卵を4,200万粒から4,320万粒に変更した。					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	683	21	678	21	668	21
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	683	21	678	21	668	21

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		5,868	6,025	6,097
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	委託料	5,867	6,024	6,096
	旅費	1	1	1
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		0	0	0
計(D)=B+C		5,868	6,025	6,097

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	6,551	6,703	6,765

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	6,551	6,703	6,765

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	市民、漁業者	市民、漁業者	市民、漁業者
受益者数	672	651	648
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	9,748	10,297	10,440

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	アユ人工ふ化卵数		単位	万粒
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	4,200	4,200	4,320	
実績値	4,200	4,200	4,320	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	河口堰のアユ遡上数		単位	万匹
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	60	81	40	
実績値	81	40	22	
達成状況	○(達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	地球温暖化等により、アユ資源が減少しており、稚アユの放流及び人工ふ化が必要。 内水面漁業の維持は公益性が高く、民間単独では負担が重いため市の補助が必要。 類似の事業はなし
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	民間だけでは達成が困難である。 長良川流域の各市町でも実施されていることから、広域的な事業である。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	アユの放流及び人工ふ化は水産振興に一定の成果がでている。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	受益者は全市民であり、水産資源の確保に努めることは適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	地球温暖化等により、アユ資源が減少しており、稚アユの放流及び人工ふ化の継続的な実施が必要である。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 002

## 【1.基本情報】

事業名	長良川下流域魚族保護対策協議会負担金						
担当部名	経済部			担当課名	畜産課		
実施方法	補助等		補助等の種類	加入団体負担金	実施主体	長良川下流域魚族保護対策協議会	
開始・終了年度	昭和	48	年度～	年度	根拠法令・関連計画	長良川下流域魚族保護対策協議会規約	

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	長良川下流域における魚族保護を積極的に推進し、河川の自然環境保全に努めるため、関係市長と長良川漁業協働組合とが連携して魚族の保護と増殖を図るとともに、河川の汚濁防止と自然環境保全に努め、地域住民の生活向上に寄与することを目的とする。						
内容 (手段・手法など)	アユや雑魚の放流、河川の汚濁防止及び自然環境保全に関する援助を積極的に実施している。						
事業の 対象	何を	アユや雑魚(ナマズ、ヘラブナ、モクズガニ等)の放流、河川汚濁の防止及び自然環境の保全					
	誰に	市民、漁業者及び遊漁者					
	どのくらい	アユ 1,950kg、銀毛アマゴ 1,800kg、ヘラブナ 970kg、ウナギ 208.5kg、ナマズ 36.5kg、モクズガニ 8,820尾等の放流					
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	変更なし						

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	553	17	549	17	541	17
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	553	17	549	17	541	17

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		3,584	3,584	3,584
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	負担金	3,584	3,584	3,584
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		3,584	3,584	3,584

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	4,137	4,133	4,125

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	4,137	4,133	4,125

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	市民、漁業者及び游漁者	市民、漁業者及び游漁者	市民、漁業者及び游漁者
受益者数	672	651	648
受益者負担額(千円)	7,708	5,800	6,517
受益者負担率(%)	186.3%	140.3%	158.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	6,156	6,349	6,365

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	魚類放流量		単位	kg
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	7,488	5,603	6,048	
実績値	6,337	5,241	5,495	

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	河口堰のアユ遡上数		単位	千尾
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1,000	1,000	1,000	
実績値	812	403	224	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	自然環境の保全を図る本事業の公益性は高い。 国又は県が一律に実施すべき事業でない。 類似の事業はなし
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的に連携し実施している。 民間だけでは達成が困難なニーズである。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	長良川下流水系における環境は、家庭排水等の流入による水質悪化、河口堰の建設に伴う遡上への影響、カワウ等による食害、アユの冷水病、コイヘルペスの発生など非常に厳しい状況にある。そのため、魚族保護の推進や環境保全対策が急務となっている。また、鵜飼についても鵜が捕獲するアユの数量が年々減少している。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	受益者負担が、50%以上占めており負担額は適正と考える。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	生物多様性損失の阻止を図り、河川の汚濁防止等、自然環境保全が必要である。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 003

## 【1.基本情報】

事業名	家畜診療及び人工授精業務					
担当部名	経済部		担当課名		畜産課	
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	45	年度～	年度	根拠法令・関連計画 —	

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	家畜の疾病の予防・治療、人工授精による家畜の改良増殖を促進して畜産業の振興を図る。					
内容 (手段・手法など)	市内畜産農家が飼養する乳用牛、肉用牛、豚、鶏について診療及び予防注射を行う。 乳牛、和牛の雌牛に人工授精を行う。					
事業の 対象	何を	家畜診療ならびに人工授精				
	誰に	市内畜産農家の家畜				
	どのくらい	畜産農家の依頼に応じて				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	19,175	590	19,800	613	17,585	553
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	19,175	590	19,800	613	17,585	553

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		12,877	11,042	10,947
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	医薬品	9,047	9,888	9,468
	備品	2,684	0	0
	燃料費	303	346	355
減価償却費 【施設管理】 (C)		0	0	0
計(D)=B+C		12,877	11,042	10,947

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	32,052	30,842	28,532

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)      令和3年度決算額(千円)      令和4年度決算額(千円)		
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	15,074	16,288	15,047
その他	325	383	438
計(F)	15,399	16,671	15,485

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	16,653	14,171	13,047

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	畜産農家	畜産農家	畜産農家
受益者数	22	25	25
受益者負担額(千円)	14,713	15,881	14,739
受益者負担率(%)	45.9%	51.5%	51.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	756,955	566,836	521,896

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	診療件数		単位	件
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1,091	1,420	1,300	
実績値	1,301	1,441	1,244	

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	生産物販売額		単位	百万円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1,000	1,000	1,000	
実績値	857	817	846	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	獣医療を提供できる機関が不十分なことから、市が実施することが妥当である。 国・県が実施するものではない。 類似の事業はなし
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的な連携でなく単独で実施するものである。 畜産業の経営環境は厳しく、今以上の民間参入が期待できない。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	家畜の多頭飼養化が進む中、一度発生すると社会的、経済的に甚大な被害を及ぼす豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生が危惧されている。農家には家畜飼養管理基準の遵守が義務付けられており、日頃からの高い予防意識が必要となっている。診療や予防注射、人工授精時にこれらについての啓発、指導を実施している。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	家畜診療点数に応じた診療費を支払っており、受益者負担は適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	獣医療を提供できる機関が不十分なことから、市内畜産農家へ獣医療を提供し、安全安心な畜産物を生産するうえで必要な事業である。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 004

## 【1.基本情報】

事業名	畜産構造改革支援事業					
担当部名	経済部			担当課名	畜産課	
実施方法	補助等		補助等の種類	団体事業補助金	実施主体	市内畜産農家
開始・終了年度	平成	28	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市農林水産関係振興補助金交付要綱

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	県が推進する地域が主体となって戦略的に取り組む畜産構造改革支援事業に対し、市としても支援を実施し、持続可能な力強い農業の実現や6次産業化の促進、農商工連携のための生産基盤の強化を推進する。					
内容 (手段・手法など)	県産主産地の維持・拡大を図るため、担い手の確保や生産基盤の強化、家畜伝染病疾病の発生予防の取組に対し、生産基盤整備に要する経費の一部を補助する。					
事業の対象	何を	生産基盤整備に要する経費の一部に対する支援				
	誰に	岐阜市内畜産農家で県より補助金の交付を受ける農家				
	どのくらい	県の補助額に2分の1を乗じた額以内の額を加算する。補助対象経費の上限は40,000,000円。				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	975	30	969	30	954	30
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	975	30	969	30	954	30

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		55,881	43,899	55,827
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	55,881	43,899	55,827
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		55,881	43,899	55,827

### (3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	56,856	44,868	56,781

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	43,921	37,233	48,765
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	43,921	37,233	48,765

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	12,935	7,635	8,016

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	畜産農家	畜産農家	畜産農家
受益者数	4	3	4
受益者負担額(千円)	110,593	61,734	98,128
受益者負担率(%)	194.5%	137.6%	172.8%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	3,233,750	2,545,000	2,004,000

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	畜産構造改革への補助		単位	件
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	5		3	3
実績値	4		3	4

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	家畜伝染病の抑制		単位	件
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	0		0	0
実績値	0		0	0
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	家畜伝染病のまん延の防止、近代的な畜舎による家畜の生産を通し、消費者に安心・安全な畜産物を提供するために妥当。 スマート農業の推進、地産地消の促進、農業振興・農業後継者の確保が期待され、市のビジョンに一致。 類似の事業はなし
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	担い手育成支援型の補助を受けた3農家で、令和7年度までに肉用牛398頭の増頭を計画。 利用者、受益者とも地域的である。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	肥育和牛の一貫生産が進み、枝肉価格が低迷する中でも、売上額減少被害を低くすることができる。 また、担い手の確保に一定の効果が見られた。 家畜排せつ物処理施設を建設し、堆肥を自家処理することで家畜伝染病の発生リスクが抑えられる。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	畜産農家及び一般市民の受益者としての負担は適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	岐阜市の畜産農家の減少が抑えられ、新たに飛騨牛の産地として県内でも認められるようになったため、今後もこの取組を継続する。



# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 005

## 【1.基本情報】

事業名	岐阜市畜産振興会育成事業									
担当部名	経済部				担当課名		畜産課			
実施方法	補助等		補助等の種類		団体育成(運営)補助金		実施主体		岐阜市畜産振興会	
開始・終了年度	昭和	39	年度～		年度	根拠法令・関連計画		岐阜市農林水産関係振興補助金交付要綱		

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	畜産に関する諸事業に取り組むと共に、部会活動(肥育牛、酪農、養豚、養鶏、養蜂)の円滑化を図り、岐阜市の畜産振興を推進する。									
内容 (手段・手法など)	効率的で経済性の高い経営体の育成、経営感覚に優れた意欲ある畜産農家の自主性と創意工夫を生かすための視察研修会、技術講習会、畜産物のPR活動、畜産共進会の開催等を推進する。									
事業の 対象	何を	畜産振興に対する支援								
	誰に	岐阜市畜産振興会会員								
	どのくらい	補助額は予算の範囲内かつ補助対象経費の3/10以内								
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—									

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	975	30	969	30	954	30
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	975	30	969	30	954	30

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		325	345	345
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	325	345	345
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		0	0	0
計(D)=B+C		325	345	345

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	1,300	1,314	1,299

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	1,300	1,314	1,299

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	畜産農家	畜産農家	畜産農家
受益者数	39	40	39
受益者負担額(千円)	903	915	907
受益者負担率(%)	69.5%	69.6%	69.8%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	33,333	32,850	33,308

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	団体活動事業費		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1,205	1,231	1,205	
実績値	1,080	1,260	1,206	

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	会員数の増		単位	人、社
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	39	40	41	
実績値	40	41	39	
達成状況	○(達成)	○(達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	畜産経営環境が厳しくなる中、市の支援が必要。 国又は県が一律に実施すべき事業でない。 地産地消立市を推進する上で必要。 類似の事業は無し
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	広域的に実施すべき面は県が実施し、地域的に実施した方がいい面 を市が実施している。 民間の当該事業に係る基盤が脆弱であるため市の支援が必要。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	畜産農家の高齢化、飼料の高騰、畜産物価格の低迷、家畜伝染病の 発生、飼養環境問題、海外からの安価な畜産物の輸入等により、年々 畜産経営は圧迫されている。一方で、消費者からは安全安心な畜産 物を求める声が高まっている。その対策として、畜産振興会が実施す る諸事業を支援することにより、畜産の振興を図る。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	受益者負担が、50%以上占めており補助額は適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いて いるため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充 又は改善することが困難であり、現状のまま 事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や 縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、 事業を取りやめる	現状 維持	畜産経営環境の変動に対応していくため、より一層の事業の効率化及 び畜産農家の連携が必要であり、これらを実現していく組織に対する 支援は継続すべきである。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 006

## 【1.基本情報】

事業名	(公財)みつばちの家事業					
担当部名	経済部		担当課名		畜産課	
実施方法	補助等		補助等の種類	団体育成(運営)補助金	実施主体	(公益財団法人)みつばちの家
開始・終了年度	平成	6	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市農林水産関係振興補助金交付要綱

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	みつばち及び養蜂に関する資料を「みつばちの家」で展示し、来館者にみつばちや養蜂業、「近代養蜂発祥の地 岐阜」をPRする。また、養蜂技術研修等を行い、養蜂技術の向上を図る。					
内容 (手段・手法など)	効率的で経済性の高い経営体の育成、経営感覚に優れた意欲ある畜産農家の自主性と創意工夫を生かすための視察研修会、技術講習会、畜産物のPR活動、畜産共進会の開催等を推進する。					
事業の 対象	何を	「みつばちの家」の公益事業に対する支援				
	誰に	(公益財団法人)みつばちの家				
	どのくらい	補助対象経費の3/10以内を補助				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	98	3	97	3	95	3
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	98	3	97	3	95	3

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費【直接事業費】(B)		315	315	314
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	315	315	314
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		315	315	314

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	413	412	409

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般財源(E-F)	413	412	409

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	養蜂業者及び来館者	養蜂業者及び来館者	養蜂業者及び来館者
受益者数	2,105	2,537	2,641
受益者負担額(千円)	1,950	1,950	1,950
受益者負担率(%)	472.7%	473.4%	476.3%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	196	162	155

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	開館日数		単位	日
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	235	236	236	
実績値	235	236	236	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	岐阜市内からの来場者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	2,800	2,800	2,800	
実績値	1,481	1,737	1,681	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	「近代養蜂発祥の地 岐阜」のブランドを市としてPRする必要がある。 本市にある公益法人であることから市が果たすべき役割が大きい。 類似の事業なし
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	公益事業には収益が伴わないため、今以上の民間の活用は困難である。 広域的に実施するニーズや環境が整っていない。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	ここ数年(平成25年～平成27年)で県の補助も得ながら老朽化した施設の補修・改修を実施した。 子供向けの展示に切り換え、子供の来館者が増えてきていたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響が大きく入場者数が減少した。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	養蜂事業者9社からの分担金で運営されており、養蜂関係の展示・研修・啓蒙用施設として目的を達成している。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	養蜂事業者9社からの分担金で運営されており、養蜂関係の展示・研修・啓蒙用施設として目的を達成している。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 007

## 【1.基本情報】

事業名	世界農業遺産啓発事業					
担当部名	経済部		担当課名	畜産課		
実施方法	補助等		補助等の種類	加入団体負担金	実施主体	世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会 (岐阜県、岐阜市、関市、美濃市、郡上市他)
開始・終了年度	平成	28	年度～	年度	根拠法令・関連計画	世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会規約 世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会負担金交付要綱

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	世界農業遺産「清流長良川の鮎」の魅力を国内外に向けて発信するため、世界農業遺産の取組を推進する。					
内容 (手段・手法など)	シンポジウムやマルシェなどのイベントの開催、鉄道、バスのラッピングやパンフレット配布のPRなど、長良川上中流域の普及・啓発活動を実施する。また、市独自のイベントとして、世界農業遺産「清流長良川の鮎」を市民に広くPRする「GIAHS鮎の日」イベントを開催する。					
事業の 対象	何を	世界農業遺産の取組のPR / 「GIAHS鮎の日」イベントの開催				
	誰に	国内外 / 国内				
	どのくらい	不特定多数 / 200名程度				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	「GIAHS鮎の日」イベント対象を岐阜市民から、国内に変更した。					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	1,495	46	1,615	50	1,590	50
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	1,495	46	1,615	50	1,590	50

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		1,224	1,805	1,837
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	1,076	1,351	1,349
	委託費	82	358	360
	消耗品費	66	74	106
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		1,224	1,805	1,837

### (3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	2,719	3,420	3,427

## 【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	2,719	3,420	3,427

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	「GIAHS鮎の日」イベント参加者	「GIAHS鮎の日」イベント参加者	「GIAHS鮎の日」イベント参加者
受益者数	0	141	160
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	24,255	21,419

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	「GIAHS鮎の日」イベント参加者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	210	120	150	
実績値	-	141	160	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	認知度		単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	50	50	50	
実績値	-	-	-	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	中	岐阜県が中心となって推進する「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されたため。 岐阜市は長良川流域の自治体であり、「清流長良川の鮎」を象徴とする「長良川システム」の保全、継承を目的とした世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会の会員となっている。 類似の事業はなし
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	「GIAHS鮎の日」イベントは夏休み中の開催であり、家族連れを中心に多数の参加があるが、屋外のイベントであるため天候の影響を受けやすい。 「GIAHS鮎の日」は岐阜県が制定しており、イベントについては、流域の4市が県のイベントと同日に開催している。 イベントの開催にあたり、関係団体である長良川漁業協同組合と連携し、発信力を高めていく。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	「GIAHS鮎の日」は岐阜県が制定しており、イベントについては、流域の4市が県のイベントと同日に開催している。 イベントの開催にあたり、関係団体である長良川漁業協同組合と連携し、発信力を高めていく。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	協議会の負担金は、岐阜県が1/2、残りの1/2を流域4市が分担して負担しており、適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	「GIAHS鮎の日」イベントは夏休み中の開催であり、家族連れを中心に多数の参加がある。イベントを通じて、地域ぐるみで自然環境の保護・保全に取り組み、世界農業遺産である「長良川システム」を保全・継承していく。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0760050 \_ 008

## 【1.基本情報】

事業名	エコプラント椿事業					
担当部名	経済部			担当課名	畜産課	
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	11	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	市内の未利用有機資源である家畜ふん及び本市の設置する学校等の公共施設から排出される給食残さを堆肥化し、有機肥料として有効利用することにより、環境保全型農業及び資源循環型社会の形成を推進し、もって地域農業の振興を図る。					
内容 (手段・手法など)	市内養鶏農家から出る鶏ふんや畜産センター公園から出る家畜ふん、市内小中学校等から出る給食残さを主な原料として、やく6週間かけて混合・発酵させ堆肥化する。堆肥は「椿」という商品名で、畜産センター公園、市内のJA等園芸店で販売している。					
事業の 対象	何を	有機肥料「椿」、市内農家の排出する鶏ふん				
	誰に	農業従事者及び家庭菜園に活用する一般市民、養鶏業者				
	どのくらい	市内の3つの養鶏業者の排出する鶏ふん、公立小中学校から出る給食残さを堆肥処理により資源化し、一般に販売する。				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	8,450	260	8,398	260	8,268	260
パートタイム会計年度任用職員A	10,712	1,040	10,712	1,040	10,504	1,040
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	19,162	1,300	19,110	1,300	18,772	1,300

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		34,346	12,608	15,832
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	工事費	30,835	1,111	1,194
	電気量	3,511	3,832	7,512
	委託料	3,401	3,566	3,573
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		34,346	12,608	15,832

### (3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	53,508	31,718	34,604

## 【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	743	1,619	1,301
その他	5,398	5,662	5,945
計(F)	6,141	7,281	7,246

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	47,367	24,437	27,358

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	一般市民、養鶏農家、市内中学校等	一般市民、養鶏農家、市内中学校等	一般市民、養鶏農家、市内中学校等
受益者数	408,109	406,407	402,965
受益者負担額(千円)	6,141	7,281	7,246
受益者負担率(%)	11.5%	23.0%	20.9%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	116	60	68

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	鶏ふん受入量		単位	t
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	622	458	450	
実績値	272	623	501	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	堆肥販売量(堆肥化による資源化の総量)		単位	t
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	328	285	328	
実績値	321	335	352	
達成状況	×(未達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	資源循環型社会形成という社会の要請に応えるため市が実施することが妥当。 国又は県が一律に実施すべき事業ではない。 類似の事業はなし。
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	維持管理費用がかさむため、民間活用は困難である。 利用者、受益者が地域的である。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	堆肥原料である鶏ふんの受入量は一定量確保に目途がついており、製品の生産量に見合った販売先を確保し、売払収入を増加させる。堆肥「椿」は、生産量に応じた販売量で水位しており堅調である。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	養鶏農家及び一般市民の受益者としての負担は適正である。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	ごみとなる鶏ふん・給食残さ等を堆肥化して有効活用し、経費についてもごみとして処理するよりコストがかかっていないため。一方施設が建設されてから20年以上経過したため、これからのあり方については検討を進める。